月刊FALCOM MAGAZINE

Vol. 97



舞台となる"監獄都市"の
続報が到着！

『イースⅨ -Monstrum NOX-』

祝！『軌跡』15周年

英雄伝説 零の軌跡 四つの運命

2月の衣装といえば
やっぱり？

『英雄伝説 暁の軌跡』

《黄金の羅刹》、
ザナドゥに降臨！

も～っと集まれ！ ファルコム学園

ファルコムニュース

ついにヨシュアと再会を果たしたエステル、しかし……

英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

イース IX -モンストルム・ノクス-

序文

自分ではない何者かになる。

そんな夢を見たことがあるだろうか？

その夢の中で私は考える。

これは自分なのか、自分ではないのか。

夢が現実なのか、現実が夢なのか？

私が辿り着いた答えはひどく単純だ。

『どちらでもいいではないか』

どちらが真実なのか――ではない。

どちらも真実なのだ。

『バルドゥークの檻』本文より～







物語の舞台となる “監獄都市” バルドゥークの新画像が到着！

『イースIX -Monstrum NOX-』

2019年発売予定の『イース』シリーズ最新作『イースⅨ -Monstrum NOX-』。今月は冒険の舞台となるエステリア北東、グリア・エルトリンゲン地方に位置する“監獄都市”《バルドゥーク》の新たな画像が到着したぞ！

タイトル：イースⅨ -Monstrum NOX- **ジャンル**：アクションRPG
対応機種：PlayStation®4 **発売日**：2019年予定
プレイ人数：1人 **CEROレーティング**：審査予定





バルドゥーク監獄

街の最奥に位置する、ロムン帝国最大の監獄施設。元々は国境を守る要塞だったが、現在は大きく改築されて監獄として利用されている。
入口は正面の跳ね橋ひとつだけで、周囲を峻険な岩壁と深い堀に囲まれていることから脱獄は不可能と言われている。かつてはロムン帝国を批判する人々を政治犯として収容したことから、監獄に対する住人たちの心証はあまり良くないようだ。

中央区

ロムン筋の大商会や宗教施設、都市最大規模の宿酒場が軒を連ねるバルドゥークの中心地。
街道から道を一本奥に入ると中産階級の人々が暮らす住宅街となり、ロムン帝国との動乱を乗り切ったグリア系商会に勤める人々もここに住んでいる。



繁華街

劇場、大衆浴場など庶民向けの娯楽施設をはじめ、小さな小売店や屋台が集まる地域。
運河の畔には市場があり、運ばれたばかりの新鮮な食物や装飾品、日常品が売られている。
また、夜には夜市が立ち並び、地元の人間に旅人も交わって猥雑な様相を呈している。

貧民街

商業の発展に伴う増税に耐えられなくなった労働者、監獄から出所したものの、働き先が見つからない者など、様々な事情で街区に住むことができない・許されない人々が暮らす地域。中には、ロムン商人によって破産に追い込まれたという者も。





『イースⅨ』の発売に先駆け、あの名作がPlayStation4で復活！

イース セルセタの樹海：改

タイトル：イース セルセタの樹海：改 **ジャンル**：アクションRPG **対応機種**：PlayStation®4
発売日：2019年5月16日（木）発売予定 **プレイ人数**：1人 **CEROレーティング**：B
価格：パッケージ版3,980円（税抜） ダウンロード版3,500円（税込）

※画像は開発中のものです。

★走行中の列車を襲う異変!?★



観察眼



不撓



びんぼうくじ



周辺調査



異変



両成敗



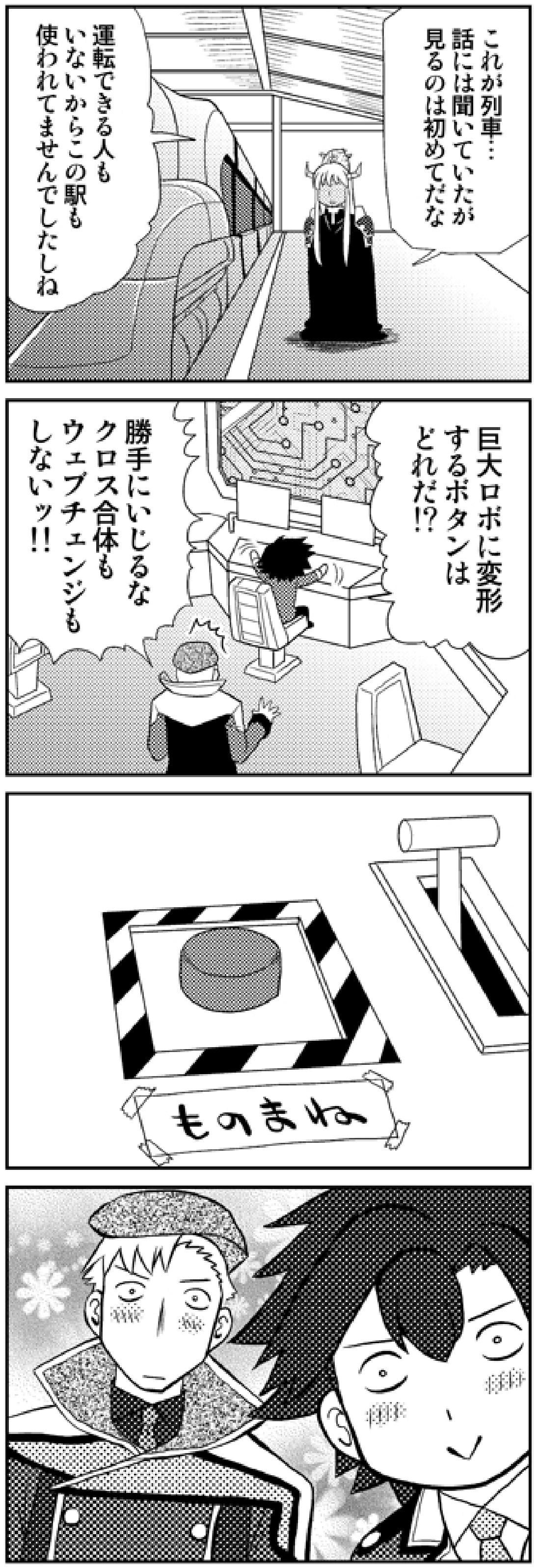
恨ミハイル



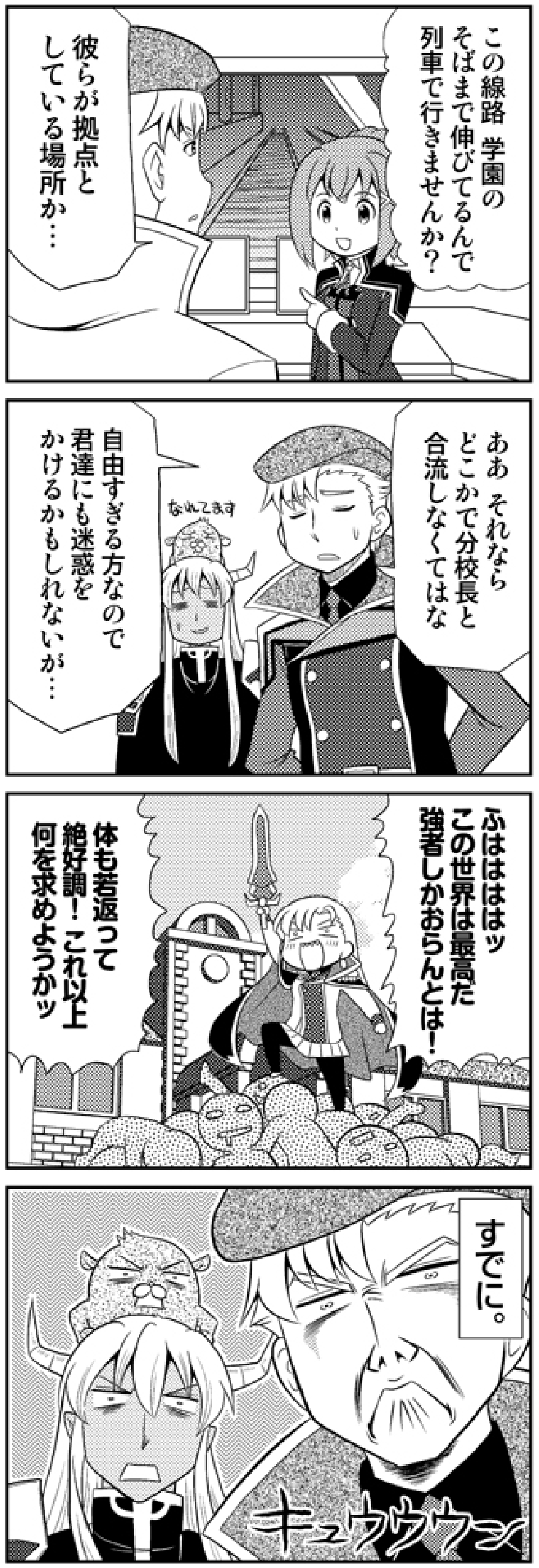
歪ミハイル



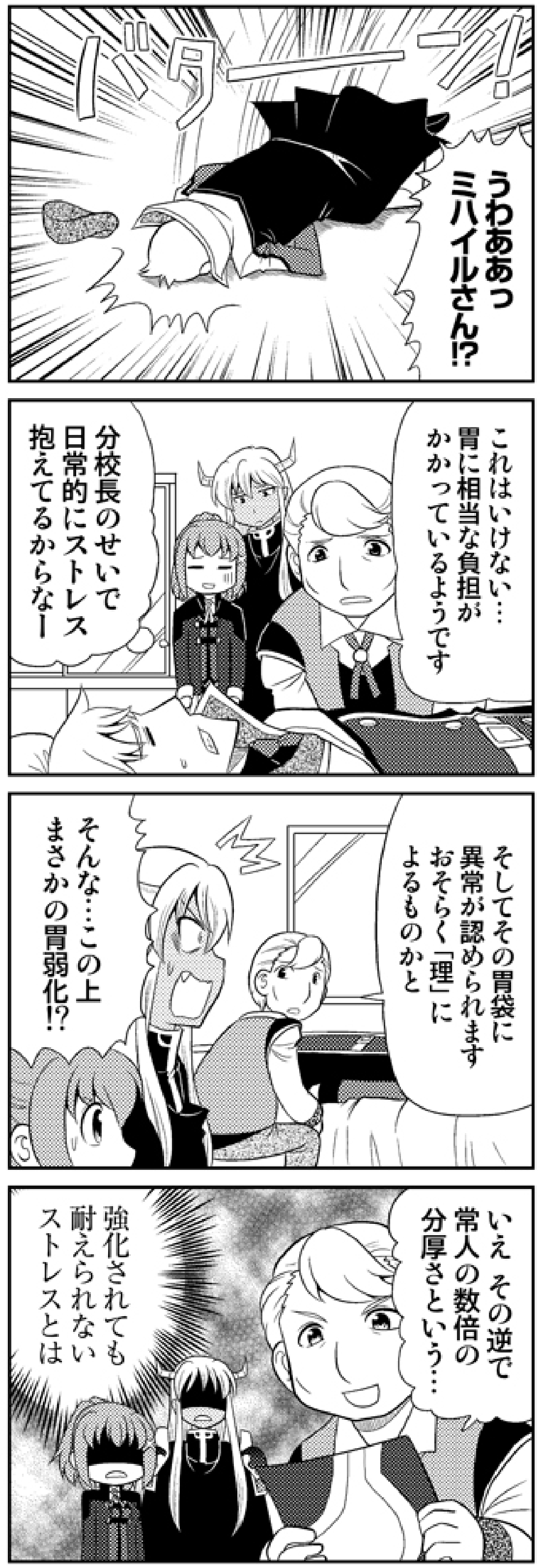
歪んだデアフリンガー



黄金羅刹の黄金時代



敗北する理



伝説の学生



挑ミハイル



逆パターン




空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画 啄木鳥しんき
原作 日本ファルコム
ま…
まさか…
ようやく姿を現したか
ヨ……


け…《剣帝》…!
まさかあたしがここに来るのを予測して…
この方舟に潜入していることは予想していたが
それだけでは隠れているおまえを見つけ出すことなど不可能だろうからな
だが
隠形というものは一度認識されたら終わりだ



おまえは最大の武器を失った
さぁ この《剣帝》相手にどうやりあうつもりなんだ？
さすがに…レーヴェと剣を交えて勝てるとは思ってないよ
ならばなぜ
この場に現れた？



守るなら守る
切り捨てるなら切り捨てる…
そう徹底しろと教えたはずだ
…だったら
レーヴェはどうなの？
……僕を切り捨てたあとも…
どうして《結社》に残って教授の手伝いなんかしているのさ…？
それは
本当は
僕だけが払うべき代償のはずなのに…！


俺の行動はおまえの件と一切関係がない
だけど
俺が《結社》に残っているのはあくまで俺自身の望みのためだ
レーヴェの望み…
それってカリン姉さんの…
復讐をしたところでカリンはもう戻ってはこない…
だから俺は世界を試すことにした
それが俺が教授に協力している理由だ
世界を試す…
おしゃべりはここまでだ

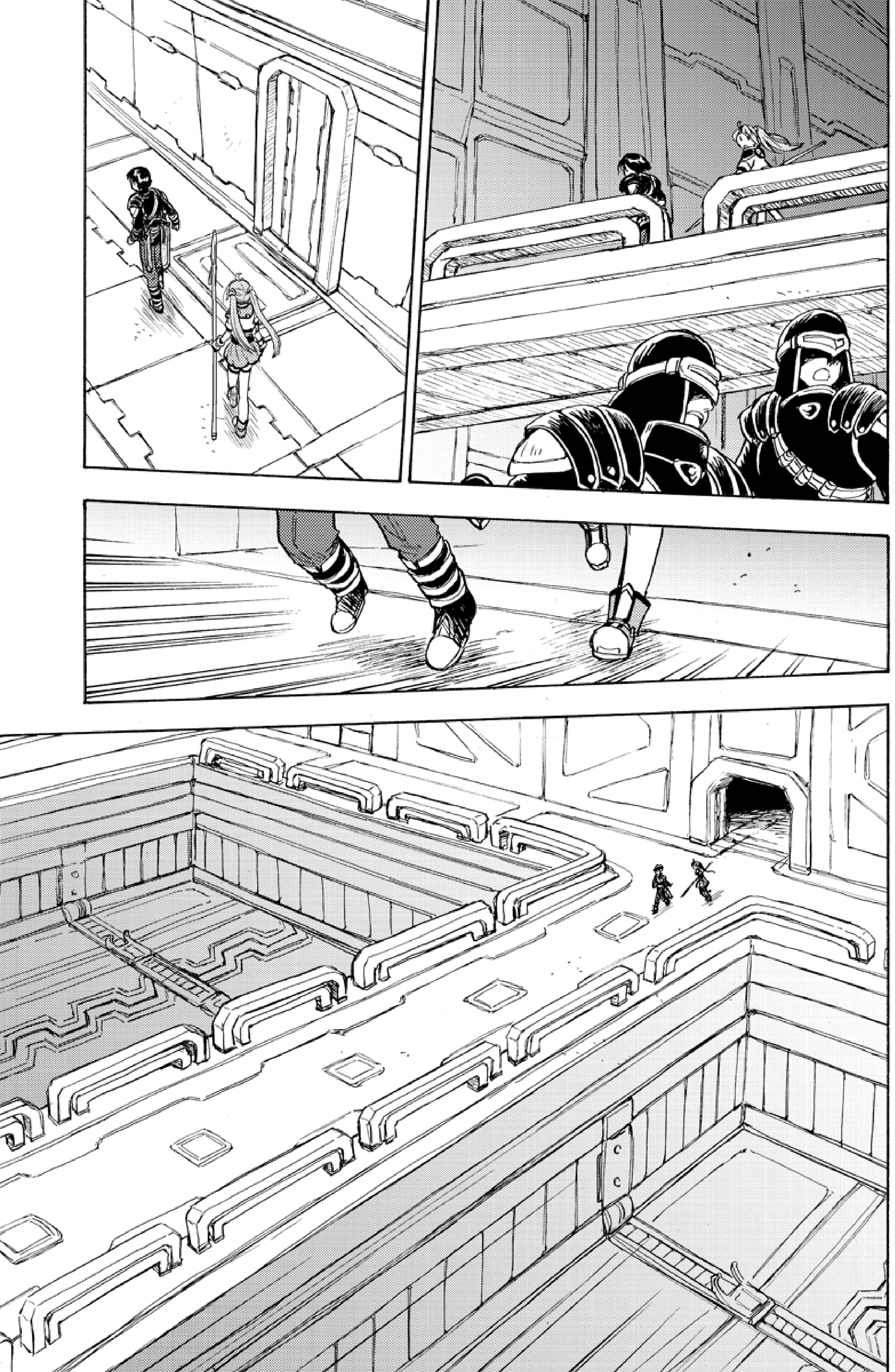

おまえの選択肢は3つある
娘と共に投降するか
娘を守ってここで果てるか
娘を見捨てて一人逃れるか
さあ
選ぶがいい

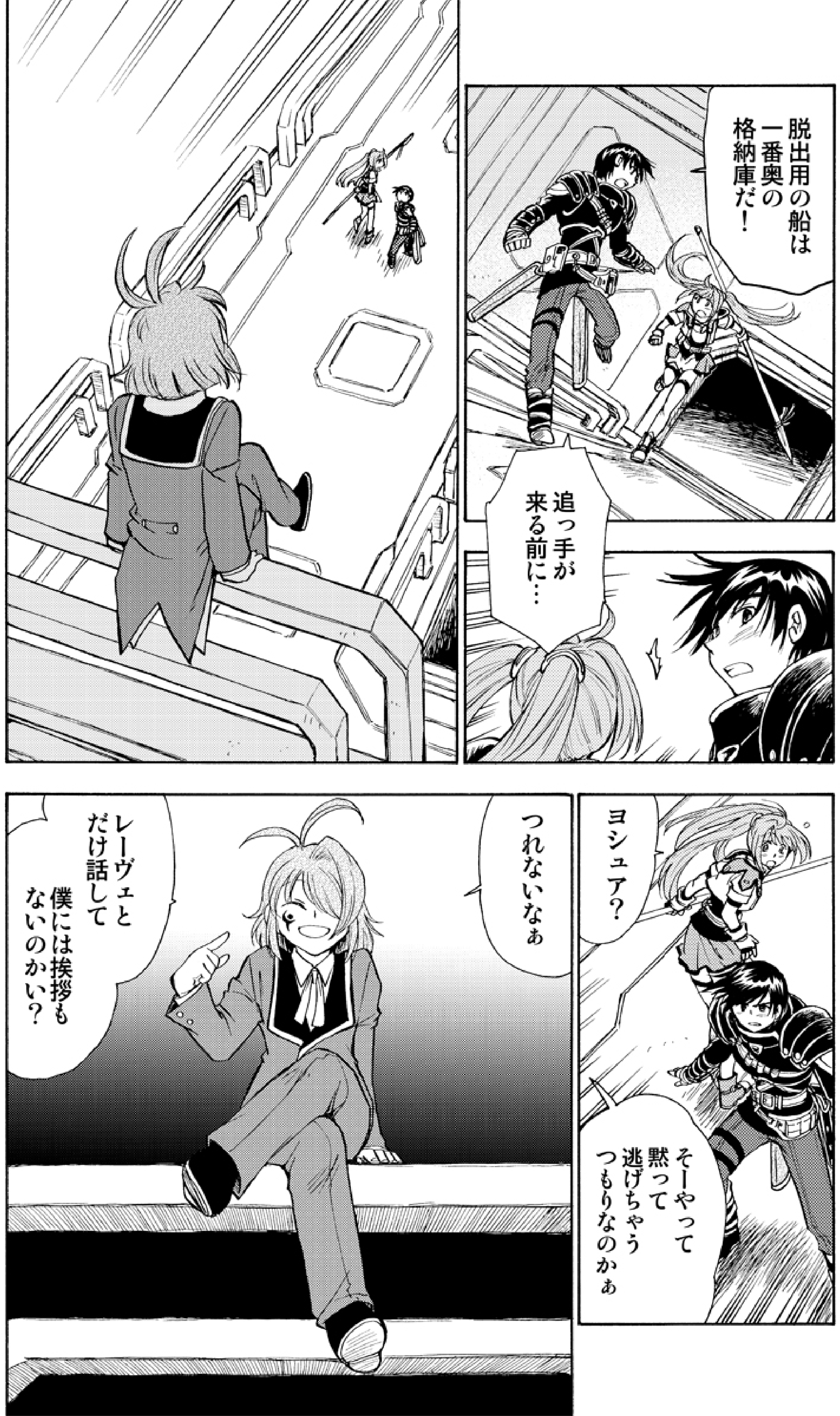

悪いけど
4つ目の選択肢を選ばせてもらうよ
なに？
な…
なに？
……爆発？
…やってくれたな
まさか認証が必要な機関部にまで侵入したのか？


22基のエンジンすべてに異なる細工をさせてもらった
放っておいたらこの船は海の藻屑と化すだろうね
教授たちがいない今
解除できるのはレーヴェだけだ
計画を阻止するための
最後の切り札というわけか…
それをここで切ってしまうという意味…
その欺瞞からおまえはいつまで逃げ続けるつもりだ?


…まぁいい
今度会う時までに答えを用意しておくがいい
楽しみにしているぞ
あ…
あの…
ヨ…
ヨシュア…


船倉の格納庫に
飛行艇を確保してある
一刻も早くグロリアスから脱出しよう
ヨシュア…
…話はその後だ
たっ
…わかった！

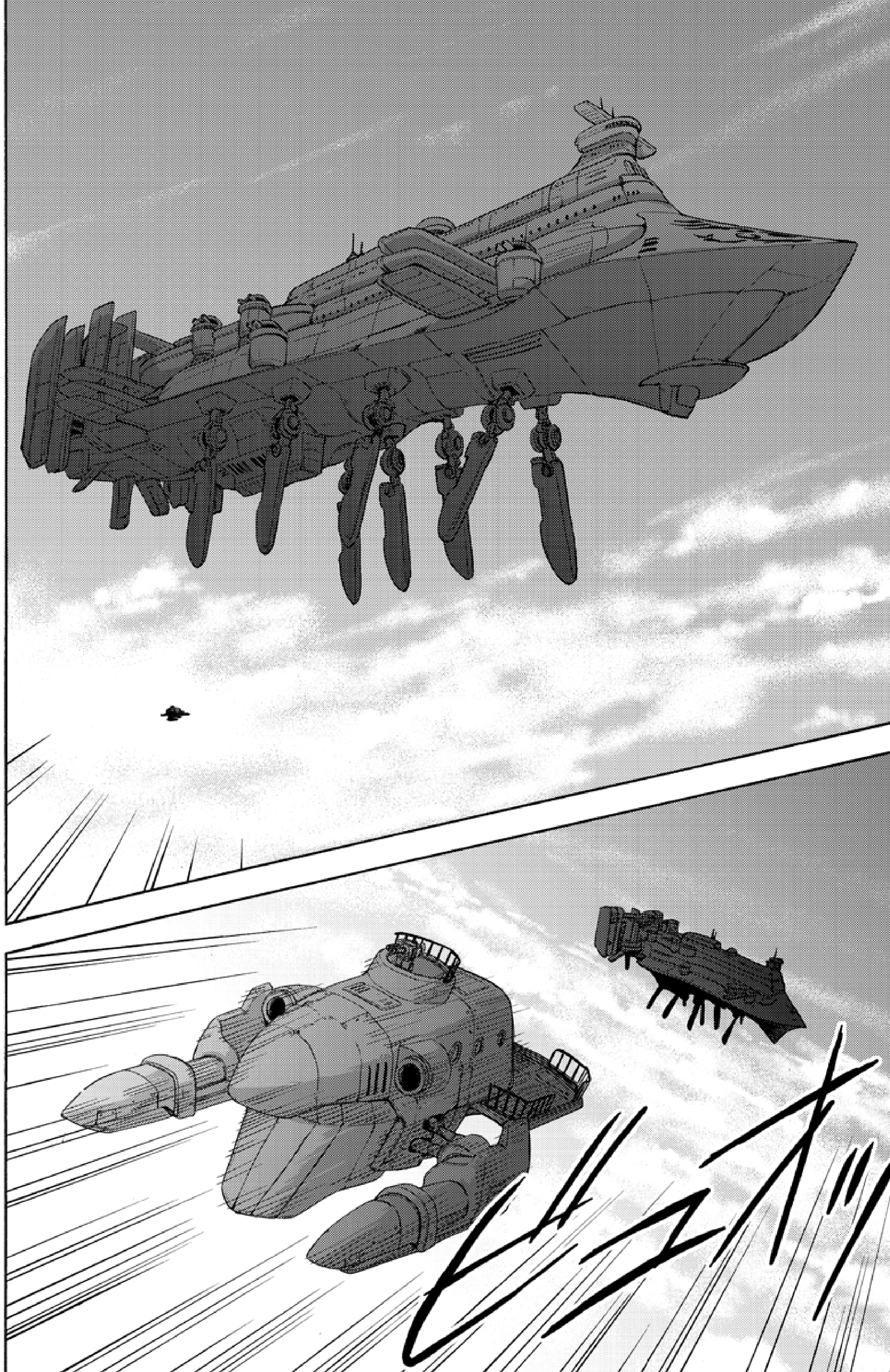



脱出用の船は一番奥の格納庫だ！
追っ手が来る前に…
ヨシュア？
そーやって黙って逃げちゃうつもりなのかぁ
つれないなぁ
レーヴェとだけ話して僕には挨拶もないのかい？

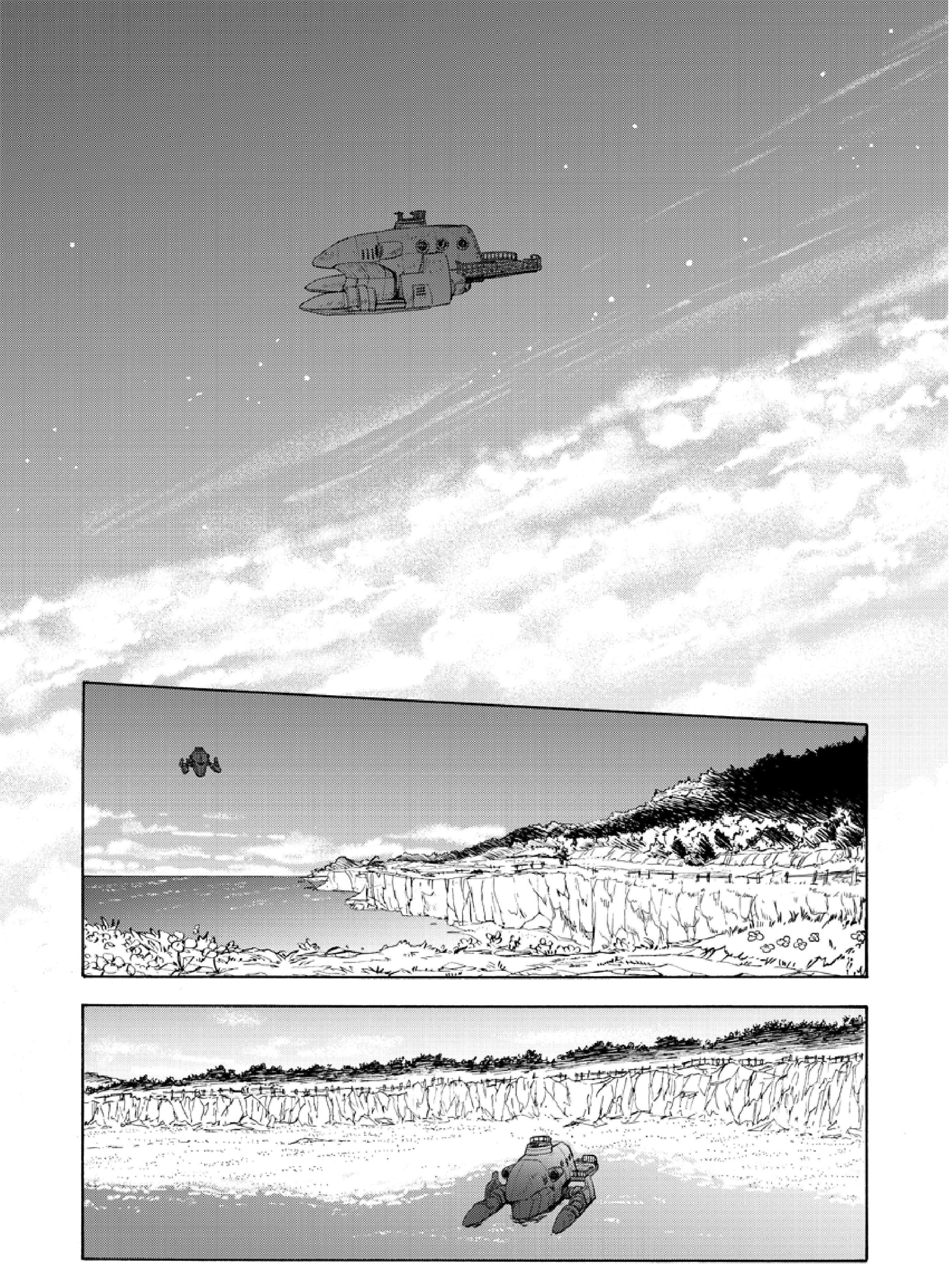

あぁあんたは確か…
カンパネルラ
僕の動きを読んでたのか
うふふ
僕はこれでも計画の見届け役だからね
他の連中よりはいろいろと気づくことが多いのさ♡
…それで？
僕とやりあうつもりかい？
まさか！
言っただろう？
僕は《見届け役》だって


楽しみだよ
かくして再会したふたりを待ち受けるのは
喜びか
絶望か…
…それじゃあおふたりさん
近いうちにまた会おう♡
ぴょんこ!
じゃーねー
どろん!
き…消えた?
なんだったのあの人…?


…行こう
え
あ
う…うん
エステル急いで
すぐに船を発進させる!
ガコーン
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ
ゴ

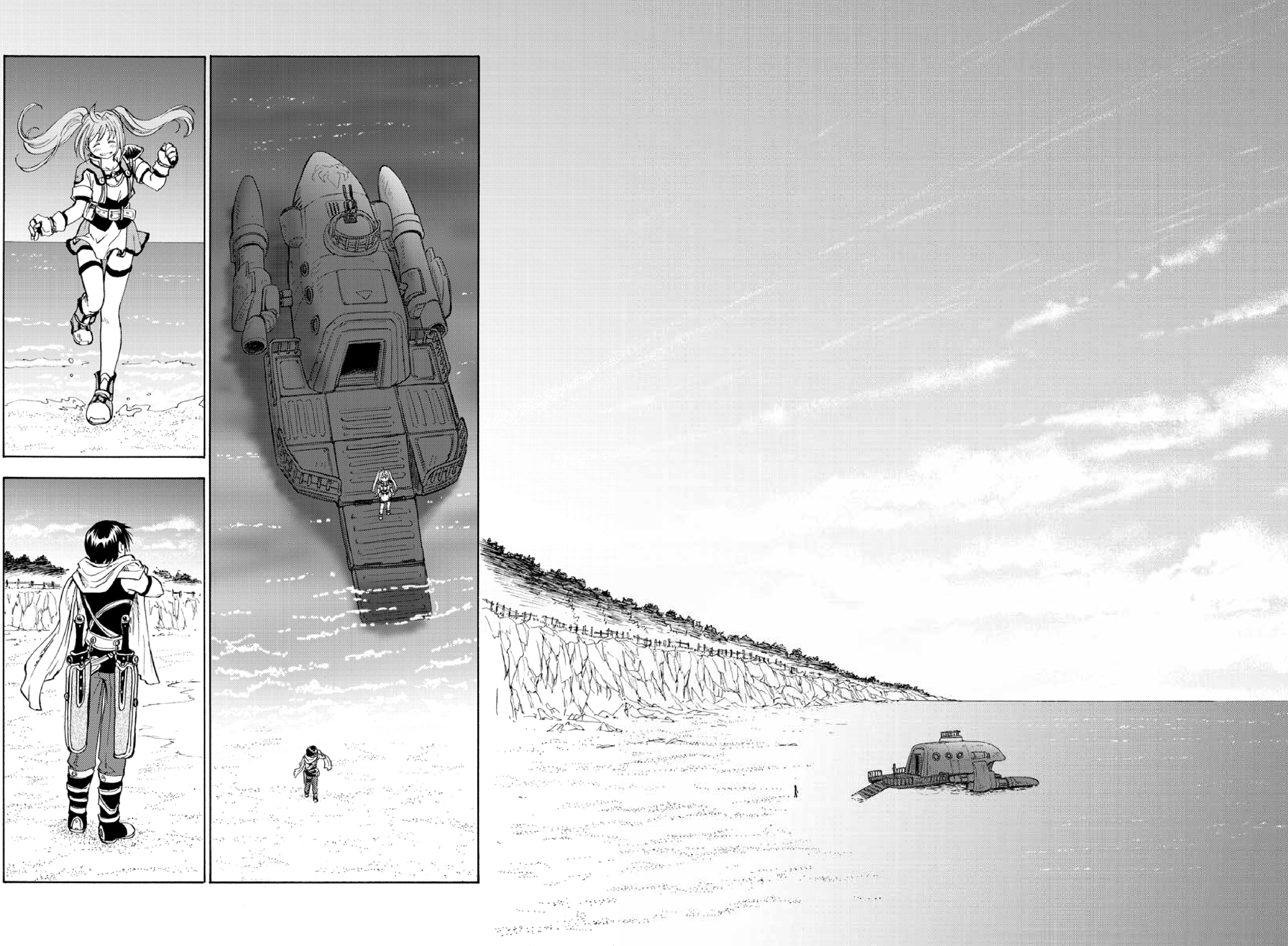

ビシュオッ


うまく逃げられた…
…のかな?
ねェ…
ヨシュア…

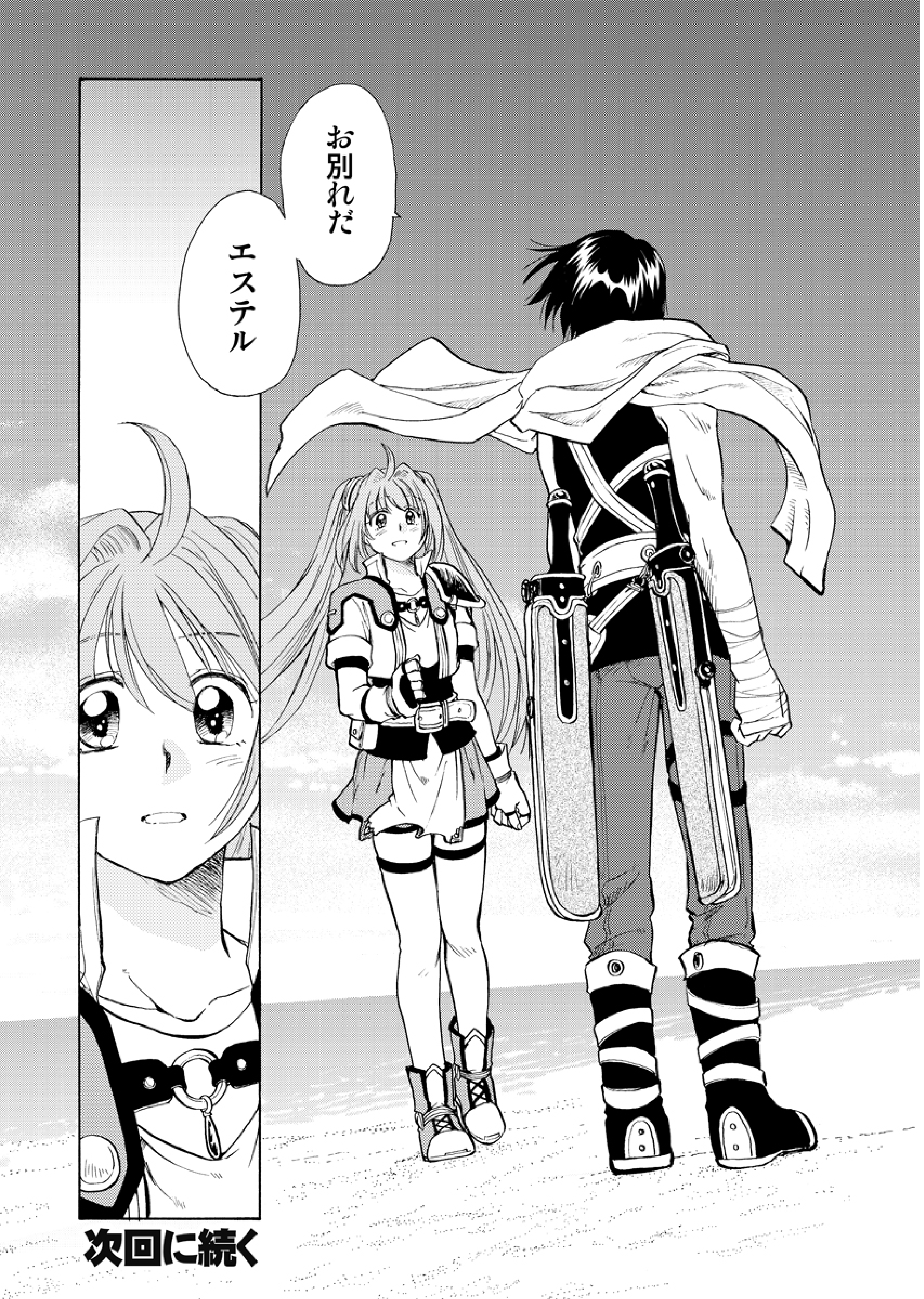




揺れるよ
気をつけて
ヨシュアがいる
本当にそこにいる
夢みたい
やっと
やっと
ヨシュアに会えた




やっと…着いたね
やっと…戻ってきた…
…ねぇ ヨシュア
あたしは…


お別れだ
エステル
次回に続く


FB ファルコムBOOKS
空の軌跡外伝
レーヴェ物語
作画：楽時たらひ 脚本：田沢大典
もうひとつの
『空の軌跡』が始まる——
原作：日本ファルコム
（『英雄伝説 空の軌跡』）
価格：893円(税込)
ISBN:978-489610-224-6
『英雄伝説 空の軌跡』の人気キャラクター・《剣帝》レオンハルトの過去を描くアウターストーリーのコミカライズ。彼はいかにして《身喰らう蛇》に与みし、数奇な運命を辿ったのか。レオンハルトの目線から見たもうひとつの『空の軌跡』の物語が始まる！ ©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
全国書店にて大好評発売中!!
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら www.field-y.co.jp


英雄伝説 空の軌跡SC 3
ソラノキセキSC
～絆の在り処～
《剣帝》レオンハルトとともに現れた、古竜レグナートの暴走を抑えるために奮闘するエステルたち遊撃士一行。その頃、復讐者となったヨシュアはカプアー家の助力を受け、静かに結社《身喰らう蛇》へと迫りつつあった……。名作RPGのコミカライズ、迫真の第3巻！
昏き瞳の暗殺者
《漆黒の牙》復活
著者：啄木鳥しんき
原作：日本ファルコム
定価：本体800円＋税
ISBN:978-4-8021-3124-7
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©KITSUTSUKI SHINKI ©2018 FIELD-Y
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら www.field-y.co.jp/falcombooks

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

「軌跡シリーズ」のキャラになりきってVR体験！
『軌跡シリーズ15周年記念コラボカフェ in VREX』開催決定!!

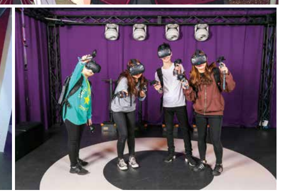
VREX公式サイト：http://www.vrex.jp/

「軌跡シリーズ」生誕15周年を記念して、VRゲーム＆カフェバー「VREX」と「軌跡」シリーズとのコラボイベントの開催が決定しました！

イベント期間中、「VREX」全店で楽しめる体感型VRゲームのアバターが「リィン」「アリサ」といった「軌跡」シリーズキャラ仕様に。さらに、店内では「軌跡」シリーズに登場した料理や、各キャラクターをイメージしたコラボフード・ドリンクも登場します！















■イベント名：
軌跡シリーズ 15 周年記念コラボカフェ in VREX
■主催：株式会社フタバ図書
■協賛：日本ファルコム株式会社
■期間：2019/3/18～2019/4/21
■場所：VR ゲーム＆カフェバー VREX
【東京】渋谷宮益坂店、新宿店
【広島】広島八丁堀店
■内容：「軌跡」キャラになりきって VR ゲーム９種が楽しめる
【3/18 ～】リィン／クロウ／アリサ／アルティナ
【4/8 ～】 ？？？／？？？／？？？／？？？

コラボフード＆ドリンク
【フード】
珍妙料理「蒼白飯《苦境》」
独自料理「裏フィッシュバーガー」
絶品料理「虹色ミルクレープ」
珍妙料理「鼓舞サラダ」
【ドリンク】
緑茶レモネード（リィン）
蒼のオルディーネ（クロウ）
黒糖ふわふわタピオカミルクティー（アルティナ）
仕事終わりのローズラテカプチーノ（アリサ）
※ 4/8 ～、VR キャラにちなんだフード・ドリンクを追加予定

期間限定「ファルコムショップ」
VREX 店内で「軌跡」シリーズグッズを販売予定

期間限定「電撃屋“軌跡”メモリアルショップ」
VREX 店内で「“軌跡”メモリアルショップ限定グッズ」を販売予定

VR ゲーム、コラボフード
ドリンクご注文の方に IC カードステッカープレゼント
（全９種＋シークレットあり）

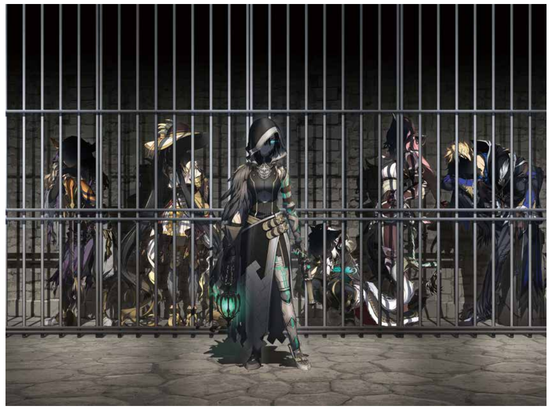
『電撃ゲームフェス2019』に近藤社長出演！

「イースⅨ」最新情報に加え、「軌跡」シリーズに気になる展開も！？

東京神楽座で開催されるゲームファンのためのイベント「電撃ゲームフェス2019」が、3月9日(土)、3月24日(日)、3月30日(土)に開催。3月24日(土)は、日本ファルコム『イースⅨ』＆『軌跡』シリーズのステージに加え、会場内で物販も開催されることが決定しました！

イベントステージは現地での閲覧と、専用のKADOKAWAアプリからイベントへの応募が可能。応募枠は“ステージ観覧＋当日の物販参加券”、“物販のみ参加”の2種類となっているので、この機会にぜひイベントにご参加ください！

http://dengekionline.com/elem/000/001/881/1881110/



■応募枠①：ステージ観覧＋物販参加
【場所】神楽座（東京都千代田区富士見 2-13-12）
【募集期間】2 月 18 日～ 3 月 4 日（正午まで）
【開催時間】2019 年 3 月 24 日（日）15：00 ～ 18：30（物販予定）
17：00 ～ 18：30（ステージ予定）
【出演】近藤季洋（日本ファルコム）、西岡美道（電撃 PS 編集長）、染谷広人（電撃 PS）ほか
【内容】
日本ファルコムの最新作『イースⅨ』の最新情報＆最速開発動画を公開！　さらに『軌跡』シリーズの気になる今後の展開について近藤社長に直接聞いちゃいます！　そのほか、電撃オンラインで募集していた『閃の軌跡』完結記念キャラ人気投票の結果発表など盛りだくさんのステージをお届けします！
※こちらの当選者の方は、ステージと物販両方にご参加いただけます。

●物販内容：
『閃の軌跡Ⅳ』エンディンググッズセットＡ - 星 -（ファブリックポスター／アクリルインテリアプレートＡ小・Ｂ６／クリアファイルＡ・３枚セット／特製缶バッチ／ポストカード／コットントート／ 9,000 円【税込】）
『閃の軌跡Ⅳ』エンディンググッズセットＢ - 花 -（アクリル製インテリアプレート大・Ａ４相当／アクリルインテリアプレートＢ小・Ｂ６／クリアファイルＢ・３枚セット／特製缶バッチ／ポストカード／コットントート／ 9,000 円【税込】）
グッズセットは最大各１点ずつご購入が可能です。

■応募枠②：物販のみ
【場所】神楽座（東京都千代田区富士見 2-13-12）
【募集期間】2 月 18 日～ 3 月 4 日（正午まで）
【開催時間】2019 年 3 月 24 日（日）15：00 ～ 18：30（予定）
【内容】
こちらは物販希望のみの方の応募になります。
●物販内容：
『閃の軌跡Ⅳ』エンディンググッズセットＡ - 星 -（ファブリックポスター／アクリルインテリアプレートＡ小・Ｂ６／クリアファイルＡ・３枚セット／特製缶バッチ／ポストカード／コットントート／ 9,000 円【税込】）
『閃の軌跡Ⅳ』エンディンググッズセットＢ - 花 -（アクリル製インテリアプレート大・Ａ４相当／アクリルインテリアプレートＢ小・Ｂ６／クリアファイルＢ・３枚セット／特製缶バッチ／ポストカード／コットントート／ 9,000 円【税込】）
グッズセットは最大各１点ずつご購入が可能です。

ファルコム人気タイトルがお買い得価格に！

PSストア『PS Vita Gameセール』2019年3月2日(土)まで開催中！

■セール期間
2019 年 2 月 21 日 (木) ～ 2019 年 3 月 2 日 (土) まで
■セール対象商品
・PS Vita「東京ザナドゥ」⇒通常 60% OFF ／ PS Plus 会員 70% OFF
・PS Vita「イースⅧ -Lacrimosa of DANA-」
⇒通常 50% OFF ／ PS Plus 会員 60% OFF
・PS Vita「英雄伝説 閃の軌跡 PlayStation® Vita the Best」
⇒通常 60% OFF ／ PS Plus 会員 70% OFF
・PS Vita「英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ」⇒通常 60% OFF ／ PS Plus 会員 70% OFF





2月の 新/衣装替えキャラクターをチェック！

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡

アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。２月も魅力的な衣装替えキャラクターがてんこ盛り！　さらには、『閃の軌跡Ⅱ』からエリオットが参戦！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/

公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

ワンピース・ラウラ

普段は機能的な衣装を着ることの多いラウラが純白のワンピース姿に。デニムのジャケットを着ることでフェミニンになりすぎず、ラウラらしいコーディネートとなっている。

エリオット・クレイグ

Ⅶ組メンバーのエリオットが暁の軌跡に参戦！『暁の軌跡』でも優秀なサポート能力で、味方を回復・強化してくれるはずだ。

バレンタイン・シャロン

２月といえばやっぱりバレンタイン。チョコレートをイメージしたブラウンのドレスが大人っぽくてセクシー。プリムを付けていない髪型も新鮮だ。

3月の 新規衣装替え キャラクターは？

※画像は開発中のものです。　※上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

2019年は『軌跡』シリーズ15周年！

英雄伝説 零の軌跡

～四つの運命～

歴代『軌跡』原作
ファルコムBOOKS
試し読み！



『軌跡』シリーズが2019年6月に15周年を迎えることを祝して、
『軌跡』シリーズを原作としたファルコムBOOKSの
お試し読みができる特別企画。第2回は、『零の軌跡』シリーズより、
特務支援課4人の過去を描いた田沢大典先生の
『英雄伝説 零の軌跡 四つの運命』をお届け！

製品情報

好評発売中

著　　　：田沢大典
イラスト：松竜
定　　価：1,100円（税別）

第一章　不良グループの抗争

この世界では、空の女神（エイドス）が、はるか天空から人々を見守っているという。
その神の世界から下界を見下ろせば、大地は緑深く、海は碧い。唯々、美しい世界が広がっているように見える。
だが、実際は違う。
多くの人がその大地に生まれ、暮らし、笑い、泣き、憎しみ、争い、奪い、奪われ、繁栄し、滅びていく。
人々は大地の上に国境線を引き、見えもしないその線をめぐって、駆け引きをし、多くの金と時間と命を浪費していた。

クロスベル自治州。ゼムリア大陸西部に位置し、エレボニア帝国とカルバード共和国というふたつの大きな国家に挟まれた地にあるこの自治州は、国境線の狭間で踊るダンサーのようなものである。
元々大陸有数の貿易都市のひとつだったが、エレボニア帝国とカルバード共和国、そして、小国ながら巧みな外交で両国と拮抗する隣国リベール王国の三カ国間で結ばれた《不戦条約》以降、投資対象として諸外国の資本の流入が加速した。
自治州の中心となるクロスベル市街では、次々とデパートやオフィスビルが建てられ、それ

に呼応するように人と物と金が集まっている。
建物は、活況を見せつけるかのようにそびえ立ち、店には美しいドレスや宝石、さらには遠い異国の珍しい品々までが並ぶ。そして、それらの繁栄を享受しようと、多くの人々が行き交う。
しかしこの華やかな街の裏には、多くの影が潜み、うごめいていた。
クロスベルというダンサーは、一心不乱に踊り続ける。無事踊りきり、喝采を浴びるのか。それとも踊りの途中で力尽き倒れ、大国に食い散らかされるのか、あるいは足を踏み外し、奈落の底へ落ちるのか——その行く末は、今は誰も知らない。

クロスベル自治州の中心地、行政と商業の要となっているクロスベル市街は、さまざまな色を持った街がモザイクのように集まっている。
多くの人々が行き交い賑わう中央通り。カジノや高級ホテルが立ち並び、不夜城の様相を呈している歓楽街。警察や図書館、美しい芝生の広場がある整然とした印象の行政区。雑然とした中にも生活感と活気を感じられる住宅街。
そして、どこか薄暗く、退廃的な空気を漂わせるダウンタウン（旧市街）。市街の住人も、用がない限りは近寄らない、むしろ用があっても近寄りたくないと考える場所である。
力をもてあました若者たちがケンカを繰り広げ、街のあちこちにその傷跡が残るダウンタウ

ン。その傷跡がもっとも顕著な広場に、いま三組の集団が対峙していた。

ひとつは、揃って赤色のジャージを羽織っている若者が四人。ジャージの背中には、毒蛇が剣に巻きついている紋章が描かれている。その凶暴な顔つきから、すぐにダウンタウンに巣くう者たちだと分かる。

もうひとつは、同じく揃いの青色の服を着ている若者の集団。こちらも数は四人。彼らの着ている服は、幾何学模様のデザインが施され、一種宗教的とも言える雰囲気を醸し出している。彼らもまた、ダウンタウンに巣くう者たちだ。

赤と青、ふたつの不良グループたちの抗争なら、ここダウンタウンでは日常茶飯事である。現に彼らは身体のあちこちに傷を作り、肩で息をしていた。戦いがあった証拠である。

しかし、今日はもうひとつ、不可思議な集団がいた。どう見てもダウンタウンの住人ではない青年に、年端のいかぬ少女まで混じっている。

しかも彼らは武器を構え、その不良グループたちを威圧していた。この第三の集団が、赤と青の青年たちを叩き伏せたのだ。

と、第三の集団のひとり、先頭に立っていた青年が、声を張りあげた。

「もうやめるんだ！」

凛としたその声は本人の中に眠る意志の強さを垣間見せる。



しかし、その場に、耳を傾けようとする者はいなかった。
「こ、こいつら、ただの素人じゃない……!?」
不良グループたちは、当然ながら腕に覚えのある者たちの集まりである。その自分たちが、体格的には圧倒的に劣る者たちになすすべもなくやられた。そのことが信じられないのだ。
特に、第三の集団の中で、もっとも幼い少女が持つ力に驚愕していた。
「あ、あの杖はなんだ？　ビリビリきたぞ……」
「魔導杖の威力、分かっていただけましたか……？」
少女は、青装束の青年たちをけん制するように杖を突き出す。
彼女の服装は独特で、もっとも目立つのが胸部にある、逆三角形状の装甲である。胸部の装甲は肩当てと繋がっており、肩当てからは短いマントが延びていて、特徴的なシルエットを形作っている。
足元は、丈の短めなプリーツスカートに、腿のあたりまで覆うサイハイソックスを履いている。そのすべてが、ダークブルーを基調にし、オレンジと白のラインで縁取りをしたデザインでまとめられている。サイハイソックスとプリーツスカートのあいだ、チラリと見える素足は白く美しい。
手に持つ杖は、先端に特殊な意匠が施されている。魔導杖（オーバルスタッフ）と呼ばれるこの杖は、詠唱なしで

魔法（アーツ）と呼ばれる特殊な力を喚起することができる、最先端技術の固まりだ。
顔立ちはまだ幼さを残している。ライトブルーの髪の毛を、頭の上でふたつに束ねた髪型がその印象を強くしている。さらに頭部には、カチューシャのような頭部装着型感知装置（ヘッドギアセンサー）がつけられており、そのセンサー部分が、まるで猫の耳のような形状をしている。そのせいで、よりかわいらしい雰囲気がある。
しかし、相手を見据える瞳には、不思議と大人びた印象が漂っていた。
第三の集団のひとり、大柄な男が、茶化すように少女に声をかける。
「おー、ティオすけは怖いねぇ」
「私の名前はティオです。すけは余計です、ランディさん」
そう言って、相手をジト目で見る少女の名はティオ・プラトーという。
ランディと呼ばれた相手は、おー怖い怖い、と再び茶化した。
ランディ・オルランド。年は二〇歳前後といったところだろうか。赤茶色の髪に、長身のせいでスマートに見えるものの、よく見るとかなりがっちりとした体躯。顔立ちから優男という印象を受けるが、彼が軽々と持っている戦斧は、導力を衝撃力に変えるユニットが取りつけられており、その重さは並の男では持ち上げるのにもひと苦労するほどである。
黒のパンツに、グレーのタートルネック、その上に着ているのは、衝撃吸収のためのベスト。

その上からオレンジ色のミリタリーコートを着込み、手首を穴あきグローブで保護している。見た目よりも機能性を重視した格好だ。

「クソが……！　やっぱ遊撃士じゃねえか！」

　赤ジャージの若者のひとりが、罵声を浴びせかける。

「だから、俺たちは遊撃士じゃねーって。まぁ、やってることは人捜しに、おつかいに、たまに魔物退治だけどな」

「くっ……ふざけたことを。やはり遊撃士ではないか！」

　今度は青装束の若者のひとりが怒鳴る。

　と、その怒鳴り声をさらりと受け流すかのような、美しい声が響いた。

「まあ、そう思われても仕方ないわよね。やっていることは、あまり変わらないもの」

　そう言ったのは、第三の集団のひとり、ティオよりも幾分か年上に見える少女だった。

　エリィ・マクダエル。腰まで伸びるパールグレーの髪が印象的である。その表情や物腰から、良家のお嬢様を連想させる。しかし、本来ならば日傘でも持ちそうなその手には、旧式の導力銃が握られていた。

　健康的な身体を包むのは、白のタイトワンピース。ワインレッド色の長袖のボレロとのツートンカラーになっている。すらりと伸びた脚は、黒いタイツで覆われていて、足元はワンピー

スと同じ白色のブーツ。腰元に太めのベルトを巻いていて、身体の両側に、ワインレッド色をした大きな『たれ』のようなものを下げている。これは飾りではなく、内側に導力銃をしまうためのホルスターである。

「ふざけたことを……なめんじゃねぇぞ、このアマ！」

　もうひとりの赤いジャージを着た男が、かみつかんばかりの勢いでエリィに怒鳴る。エリィが反射的に身を引いたところに、割って入るようにひとりの青年が立つ。先ほど声を上げて、彼らの動きを制止しようとした青年だった。

　名をロイド・バニングスという。ラフに切りそろえられた茶髪に、まだ少年の面影を残す顔つき。だが、その瞳には、強い意志が宿っている。

　そしてその手には、トンファーが握られていた。東方由来の、防御力と制圧力に優れた武器である。

　ところどころ補強を施したアーミーパンツに、丈夫なブーツ。タートルネックのシャツを中に着込み、その上から、白地に袖の部分が青色のジャケットを羽織っている。ジャケットの左肩と背中には、クロスベル警察の所属を表す紋章が入っている。

　ここまで分かりやすく警察の格好をしているのに、遊撃士に間違われるとは……と、ロイドは内心でため息をついた。

「さっきも言ったけど、俺たちはクロスベル警察・特務支援課だ。市民の通報で、ここで不良グループのケンカが始まろうとしているという情報を得て……」
「不良グループじゃねえよ！」
「まったくだ。我らは誇り高き集団。そこの下衆な者たちと一緒にしてもらっては困る」
「ンだとおらァ！」
赤ジャージと青装束が勝手にケンカを始めようとしたので、ロイドはあわてて間に入る。
「だから！　そういう風にケンカにならないよう、俺たちがやってきて……」
話し合いで解決しようとしたが、問答無用で襲いかかられたので、実力で退けたところである。
しかし、その程度でめげるなら、市民もわざわざ通報したりはしない。彼らは、このダウンタウンでもてあますほどの『ワル』なのだ。
彼らの怒りの矛先は、仲裁に入ろうとしたロイドへと再び向けられた。
「上等だテメェ！　今度こそボコってやるから覚悟しろ！」
「ダウンタウンにはダウンタウンのルールがある。警察ごときに邪魔をされるいわれはない」
痛めつけられてもなお、彼らはやる気である。
ロイドは頭の中で、次の一手を考えていた。
さっきは手加減したが、今度は本気でやるしかないか……？　だが、あまり無駄な血は流し

たくない。一体どうする？
考えあぐねていたその時、
「——その辺にしときなよ」
あたりに、涼やかな声が響いた。
すると、それまでいきり立っていた赤ジャージと青装束全員が、途端に息を呑んだ。
ロイドが声のした方を見ると、そこには美しい女性の姿があった。しかし、、その身のこなしを見て、女性と思われたその人物が、どうやら男性らしいとロイドは気づく。つい見間違えてしまうほど、その人物の顔立ちは整っていた。
彼の服装は特徴的で、上半身こそ青装束の男たちが着ているものと似ているが、胸の下ですっぱりと切れていて、腹部がまる見えである。しかし、そこに見える腹筋は見るからに鍛えられており、彼がただの優男でないことをうかがわせる。
脚は黒のパンツの上に白いブーツを履いており、右足のブーツには青色のアクセントラインで十字が引かれている。
青装束の青年のひとりが、ぽつりとつぶやく。
「ワジ……来てたのか」
ワジと呼ばれた人物は、ただ微笑みを返した。

しかし、その微笑みは美しさもあいまって、青装束の集団を黙らせるだけの凄味があった。
彼の後ろには、やはり同じく青装束を着た、たくましい体躯のスキンヘッドの男が無言で控えている。
何も言葉を発しないが、そのたたずまいを見てランディはすぐに、
——タダ者じゃないな、アレは。
と気づいた。
その時、肉食獣を思わせる、どう猛そうな声が、ワジがやってきた方向とは反対から響いた。
「おいおい……揃いもそろって何やってやがる」
今度は赤ジャージの男たちが色めきだつ番だった。
「ヴァ、ヴァルドさん……！」
ヴァルドと呼ばれた男は、大股でのっしのっしと歩いてくる。その体つきも、声と同じ肉食獣を連想させる、大柄で筋肉質なものだった。
ゆったりとした赤のパンツ。太いベルトには、チェーンがぶら下げられている。上半身は、その強靭な肉体を見せつけるかのように、ところどころに鋲が打たれた赤いベストを羽織っているだけだった。
「どうやら、両方のチームの頭（ヘッド）のお出ましらしいな」

ランディが、ロイドにだけ聞こえるように耳打ちをした。
ヴァルドは、赤ジャージの集団の前に立った。
「人が昼寝をしてる間に、楽しそうな事をしてるじゃねえか。なあ、お前ら……こいつは一体どういうつもりだ？」
全員をギロリとにらみまわす。にらまれた方は、さながらヘビと対峙しているカエルのように、脂汗をかいている。
赤ジャージを着た男のひとりが、なんとかこの場をごまかせないかと口を開いた。
「へへ、なんと言いますか。青坊主どもにお仕置きをしようとしたら、この変な連中がですね……」
ヴァルドは、なおも口を開こうとする男の胸ぐらをつかみ、苦もなく持ち上げた。
「ひいっ……！」
身体が浮いてしまい、足をジタバタさせ、おびえる男。ヴァルドは、相手の顔に自分の顔を思いっきり近づけ、地獄の底から聞こえるような低い声ですごむ。
「このタコが……先走るなって言ったろうが、あァ!?
てめえら前座がしゃしゃり出て、俺様の顔を潰すつもりかよ……？」
持ち上げられた男は、必死に首を振って否定した。

「め、め、滅相もない！　ヴァルドさんの顔を潰すなんて、これっぽっちも……！」
フン、とつまらなさそうに言い、ヴァルドは男を放りなげた。
ぎゃっ！　と声がして、男が尻もちをつく。
その様子をつまらなそうに見ていたワジだったが、青装束の集団に向けて口を開いた。
「君たちも、一体どういうつもりかな？　僕の言ったことが聞けないっていうわけ？」
ワジにジロリ、と見つめられ、青装束の男たちはあわててかぶりを振る。
「だが、ワジ……」
「こ、こいつらが絡んでくるから、つい……」
必死に言い訳をしようとする男たちを冷ややかに見つめるワジ。見かねたように、後ろに立つ大男が言った。
「――言い訳はいい。俺たちはワジの手足。余計な気を回す必要はない」
そのひと言で、青装束の男たちはしゅん、としてしまった。
「分かった……」
「も、猛省する……」
そんなふたりを見て、判ってくれればいいよ、とワジは興味なさそうにつぶやいた。

ワジと青装束たちのやりとりを見て、ヴァルドがニタリと笑う。
「相変わらず気色の悪い連中だぜ。舎弟にそんな格好をさせて、どこぞの宗教家気取りかよ？」
「別に僕がその格好を強制してるわけじゃないけどね」
今度はワジがニヤリと笑った。
「そっちの方こそ、手下に当り散らしてばかりだと、お里が知れるってもんだよ？　お山の大将さん」
完全な挑発行為である。だが、ヴァルドは怒ることなく、ニタリと笑った口の端をさらに上げ、ただ笑っていた。
「ククク……」
そんなヴァルドの様子がおかしいのか、ワジもつられて笑う。
「フフフ……」
ふたりのやりとりを見ていたロイドは、心の中でつぶやいた。
――一体どういうことだ？　ふたりは明らかに敵対してる不良グループのリーダーだ。それなのに、この関係は……。
ロイドがいぶかしんでいると、ワジが話しかけてきた。
「君たち、警察の人って本当？　とてもそうは見えないけど」

続けて、ヴァルドがランディを獲物を狙う目でにらみつけながら言う。
「特にそこの赤毛……いいガタイしてんじゃねぇか」
「そりゃどうも……アンタほどじゃないけどな」
ヴァルドに褒められ、ランディは肩をすくめた。この場合褒められるのは『ガチンコで勝負したい』という意思表示だと知っているからだ。
ヴァルドの獲物を狙う視線は、エリィとティオに向かった。
「まあ、そっちの姉ちゃんたちは、とても警察には見えねぇけどなァ。なかなかの上玉じゃねえか？」
舌なめずりでもしそうな表情で見つめられ、エリィは背筋にぞわり、といやな感覚が走る。ティオに至っては、魔導杖を握りしめ、今にも振りかぶりそうな勢いだ。その空気を察したロイドが、話を変える。
「新人だが、全員警察の人間だ。『特務支援課』という新部署に所属している」
ワジの目が、軽く見開かれる。
「《クロスベルタイムズ》に載っていたアレか。へぇ、君たちが」
「なんだァ？　コイツら何かやらかしたのかよ？」
ヴァルドの疑問に、ワジが答える。
「ああ、ジオフロントでは大活躍だったみたいだよ」
そこまで言ってワジは、クスリと笑った。
「ギルドの噛ませ犬としてね。いや、アリオス・マクレインの噛ませ犬として、と言った方がいいのかな？」
「なっ……」
ワジが言っているのは、特務支援課最初の任務である、ジオフロントの探索のことだった。彼らはその捜索途中で迷子の子供を見つけるも、魔獣に襲われ危機に陥ったのである。そこに助けに入ってきたのが、アリオス・マクレイン。この街の遊撃士ギルドのトップで、《風の剣聖》のふたつ名を持つA級遊撃士である。
初任務での手柄を遊撃士ギルドに持っていかれ、それを週刊誌《クロスベルタイムズ》にすっぱ抜かれるという、特務支援課にとっては痛い船出だった。
「あぁ、ゴメンゴメン。一応、少しは、役に立ったんだっけ？」
「ぐっ……」
明らかな挑発と判っていても、思わずいらついてしまうロイド。その表情の変化を見て、十分に楽しんだワジが、余裕たっぷりに続ける。
「イジめるのは、このぐらいにしておいて……自己紹介といこうか。僕はワジ。ワジ・ヘミスフィ

ア。一応、『テスタメンツ』の頭（ヘッド）をしてるみたいだよ？」
ワジの後を受けて、ヴァルドも名乗りをあげた。
「――ヴァルド。ヴァルド・ヴァレスだ。『サーベルバイパー』の頭（ヘッド）をやってる」
「ワジにヴァルドか……」
一見落ち着いた言動に聞こえるワジだが、その実はかなりの凄味を感じさせる。
むろん、直接威圧的な言動をするヴァルドは言わずもがなだ。
だが、ふたりの関係は、そこまで悪くなさそうだ。そうロイドは思い、わずかな安堵を感じた。
「改めて、クロスベル警察・特務支援課のロイド・バニングスだ。ふたりとも、どうやらこれ以上事を構えるつもりはなさそうだし……ここは、任せてもいいのかな？」
不良の軽いもめ事に、あまり警察が首をつっこみすぎては、彼らのメンツを潰すことになる。
そこでロイドは、彼ら自身で手打ちにしてもらおうと考えた。
だが、そのもくろみは、あっさりと崩れ去った。
「ククク……ハハハハハッ！」
「フフ……ウフフ……あはははっ！」
ワジとヴァルドは、同時に爆笑した。
どうしたことかと戸惑うロイドに、涙をぬぐいながらワジが言い放つ。



「いやいや、おめでたいなー」
獲物を前に舌なめずりをするような表情で、ヴァルドがその後を受けた。
「事を構えるつもりがない？　何を寝ぼけたことを言ってんだ？」
「なに……」
「この場は手を引くよ。でも、それはただ単に準備が済んでいないからさ」
前髪を指で払いながら、ワジはヴァルドをにらみつける。
「――準備が終わり次第、徹底的にやり合うつもりだよ」
ワジの視線を真っ正面から受け止めるヴァルド。バン！　と音を立て、自分の手のひらに拳を打ちつける。
「それも今までみたいな、セコイ小競り合いじゃねえ……どちらかを根絶やしにするまでの、ぶっ潰し合いよ！」
その声色にうすら寒いものを感じ、ロイドやエリィは息を呑んだ。
「おいおい……殺し合いでもするつもりかよ？」
あえて脱力するようなトーンでランディが問いかける。それにヴァルドは、肉食獣の笑みで答えた。
「そうなっても不思議じゃねえだろうなァ。ま、どちらが血ヘドを吐くかは分かりきってるけどよォ？」
「言ってなよ」
ギラギラとしたヴァルドの視線を、冷ややかな視線で受け止めるワジ。こちらは氷のような微笑で返す。
止めないとマズい。そう思い、口を開きかけるロイド。
その動きを見透かすように、ワジが振り向き、冷たく言い放った。
「まあ、どっちにしてもお呼びじゃないってことさ」
スッ、と目が細められ、ロイドたちを何の価値もないと断ずるような口調で続ける。
「腰抜けの警察の犬――まして、君たちみたいな若造（ガキ）はね」
「っ……！」
ロイドは何も言えなかった。
確かに、この街では警察の権威はかなり落ちているし、自分たちはできたばかりの組織である。さらに言えば、つい先日辞令を受けたばかりのひよっ子だ。しかも、支援課のほとんどが、捜査官の資格を持たず、警察官という肩書きすら怪しい人物ばかりときている。
反論の余地は、まるでなかった。
黙ってしまったロイドの様子を見て、己の中の加虐心が満足したのか、ヴァルドが引き上げ

命令を出した。
「行くぞ、てめえら！」
オッス！　という怒号にも似た返答が、サーベルバイパーのメンバーから次々に上がる。
その様子を見て、ワジもスッと手を上げた。
「フフ……こちらも引き上げるよ」
「了解だ」
ワジの傍らに立つスキンヘッドの男が答える。テスタメンツのメンバーは返答もなく、無言で姿勢を正し、ワジの後ろへとつき従っていった。
人々の足音が消え、最後にロイドたち特務支援課のメンバーだけが、ダウンタウンの広場に取り残された。
ロイドは無言のまま、立ち尽くしていた。その様子を気遣い、エリィが話題を変えようとみんなに声をかける。
「困った人たちね。それにどちらも、かなり本気みたいだったわ」
ランディが、呆れつつ答えた。
「お嬢の言うとおりだぜ。あの調子だと、準備が整ったらすぐにでもやり合うつもりだな。血を見るぞ、こりゃ」
「でも、課長からの任務は一応終えた形にはなりますし……これ以上は任務外なのでは？」
ティオの問いかけに、ロイドは首を振った。
「いや、違う」
ロイドから、強い意志を感じる言葉を聞き、エリィたちは自然と姿勢を正した。
「ここで放置するということは、彼らの抗争を見て見ぬふりをするということだ。それじゃ、本当の意味で任務を終わらせたことにはならない。俺たち特務支援課に課せられてるのは、ただ任務をこなすことだけじゃない。事件の解決を通じて、警察に対する市民の信頼を取り戻すことだ」
ロイドの言葉に、確かに、とうなずくエリィ。
「でもよ、具体的にはどうするんだ？　『お前ら仲良くやれよ』なんて言って、聞くような連中じゃないだろ」
軽く茶化しつつ、ランディが言う。
「そこが頭の痛いところなんだけど……」
そう言いつつ、頭をかくロイド。その手が不意に止まった。軽くうつむいて、考え込む。
「どうした？」
「そういえば……どうしてあの二チームは『潰し合う』つもりなんだ？」

ロイドの疑問に、今度はエリィやランディが首をかしげる。
「どうしてって……」
「そりゃ、縄張り争いだの、意地の張り合いだのってあたりだろ？」
「いや、それだけじゃ普通、本気の潰し合いにはならない」
ロイドは顔をあげ、続けた。
「利権が絡んでるならともかく、街の不良同士のいざこざだ。念入りに準備してまで、徹底的に潰し合う必要があるとは思えない」
縄張り争いや意地の張り合いは、不良グループにとっては日常茶飯事であり、そこまでヒートアップすることにはならない。
そのロイドの考えにいたったエリィたちは、みな目を見開いた。
「……驚きました」
「ええ、私も」
「ふーん、なるほどねぇ」
彼らの口ぶりに、それまでの確信が急にしぼんでいくロイド。
「そんなに、変なこと言ったかな？」
「ううん、さすが捜査官の資格を持っているだけはあるなって、そう思ったの」

「いいとこ突いてると思うぜ。それに見たところ、ヘッド同士はそこまで険悪って雰囲気でもなかったしな」
エリィとランディが、口々にロイドの視点を褒める。ふたりはロイドとつきあいはじめてまだ日が浅かったが、彼が時折見せる視点の多様さと鋭さは、かなりのものだと感じていた。
ふたりに自分の考えが認められ、わずかに顔をほころばせるロイド。と、ティオがつぶやいた。
「……多分、理由があるのではないかと。当事者以外は知らない、本気で争うだけの、何かが」
彼女も、発言によってロイドの考えを支持する。
みなの向いている方向がひとつになった、とロイドは確信した。
「だったら……やるべきことはひとつだろう？」
「だな」
ランディがうなずき、エリィとティオも後に続く。
「これより特務支援課は、サーベルバイパーとテスタメンツの抗争を止めるべく、捜査を開始する――！」
その日の夜。
ロイドたち特務支援課は、行政区にある警察本部ではなく、クロスベル市街の中央広場横に

あるビルにその居を構えている。

これは、依頼や事件で出動する際の即時応答性を高めると同時に、より市民に近いことを印象づけるためのアピールの意味もあった。

ビルの一階はクロスベル警察分室・特務支援課。二階と三階が、ロイドたちの寮となっている。

その寮の一室に、ロイドは戻ってきていた。

扉を開け、着の身着のままで、ベッドに倒れ込む。洋服がしわになるのは嫌だったが、それ以上に身体が休息を欲していた。

「うあー……」

声にならないうめき声を出して、ひと息つく。

ロイドは警察学校で鍛えているので、身体にはある程度の自信はあったが、支援課の仕事は問題の調停役や、一筋縄ではいかない事件など、肉体ではなく精神的に疲労するものも多い。しかも本人の性格と若さ故に、それらの問題を真正面から受け止めてしまうので、より疲れてしまうのだった。

「着替えなきゃ……それに、エニグマ（携帯端末）の結晶回路（クオーツ）のメンテナンスもしないと……」

第五世代戦術オーブメント、通称ＥＮＩＧＭＡ（エニグマ）。携帯できるサイズと重量の戦術オーブメントで、通信機能なども搭載している。警察から支給されているエニグマは、この街に張り巡らされつつある導力ネットワークと共に、なくてはならないものとなりつつある。いざという時に使えなくては困るので、日々のメンテナンスを欠かさないようにしていた。

寝たがる身体を無理矢理ベッドから引きはがし、机に向かってのそのそと歩く。ポケットから取り出したエニグマを机の上に置くと、ストラップとしてつけている、兄の形見のネームタグが目に飛び込んできた。

ネームタグには、深い刀傷が一本、斜めに入っている。死の間際につけられたものだろうか。

ロイドは無言でしばらくそれを見つめ、そのまま視線を上に滑らせた。壁に貼りつけたコルクボード、その真ん中に貼られている写真を見つめる。

そこには、兄ガイとその恋人セシル、そして少年の頃のロイドが写っていた。

今度の『空の軌跡』小説は
ナイアル&ドロシーが主役！



英雄伝説 空の軌跡 リベール王国スナップショット

シリーズ累計200万本を突破した、日本ファルコムの大人気RPG『軌跡』シリーズ。その中でも特に人気の高い『空の軌跡』シリーズから外伝小説が登場！ リベール通信社のナイアル&ドロシーの記者コンビが、リベール国内の取材旅行中に出遭った人たちとの触れ合いを描いていく、心温まるハートフルストーリー4篇を収録。

好評発売中!!

1,200円+税

判型：B6正寸　並製ページ数:296
ISBN：978-4-89610-846-0
発行元:フィールドワイ　発売元:メディアパル

《ARCUS》の誤作動で
リィンとアリサが入れ替わっちゃった!?



英雄伝説 閃の軌跡 メンタルクロスリンク

ある日の模擬戦のこと、《ARCUS》の新機能のテストを兼ねて模擬戦を行っていたリィン一同。戦いが白熱していく最中、渾身の一撃を今まさに撃ち込もうとしたその時、リィンとアリサ、そしてラウラとフィーの精神がそれぞれ入れ替わってしまい……!?
『英雄伝説 閃の軌跡』初のノベライズはまさかのドタバタコメディー。彼らを待ち受けている結末とは……!?

好評発売中!

1,200円（税抜）

原作：日本ファルコム（『英雄伝説 閃の軌跡』）
著：草薙アキ
イラスト：YahaKo

■判型：B6正寸　総ページ数：256P　ISBN：978-4-8021-3015-8
発行：フィールドワイ　発売：メディアパル

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！





① 3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大好評につき、またまたオリジナル缶バッジを７個セットで３名にプレゼント!
※絵柄はランダムです。

② １名様

イースVIII Lacrimosa of DANA WonderGOO特典特大タペストリー

さがら梨々先生描き下ろしによるダーナのタペストリーを１名にプレゼント！
（サイズ：約515×1200mm）

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.97プレゼント係

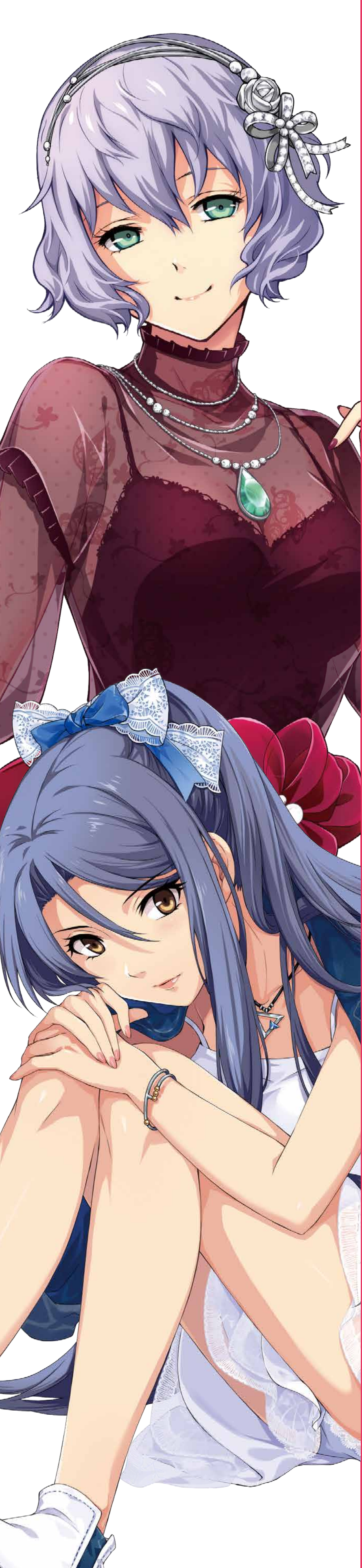
1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→
　（記事一覧から１つずつ）
3：アンケート①『イース』シリーズの好きなキャラクターは？
　アンケート②『イース』シリーズの好きなBGMは？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：イースIX最新情報
2：も～っと集まれ！ファルコム学園
3：英雄伝説 空の軌跡SC
　～絆の在り処～
4：ファルコムニュース
5：暁の軌跡最新情報
6：英雄伝説 零の軌跡 四つの運命

応募締め切り **3月28日（木）**

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.97

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/